

令和 5 年度

社会福祉法人佐賀整肢学園
事業実績報告書（案）

総括抜粋

令和 5 年度佐賀整肢学園事業実績報告書（案）

令和 5 年度佐賀整肢学園事業実績報告書は以下に定めるところによる。

佐賀整肢学園法人本部・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～9

佐賀整肢学園こども発達医療センター・・・・・・・・・・10

佐賀整肢学園・オークス・・・・・・・・・・・・・・・・・・11～12

佐賀整肢学園・かんざき清流苑・・・・・・・・・・・・・・・・13

在宅サポートセンターかんざき清流苑・・・・・・・・・・14

佐賀整肢学園からつ医療福祉センター・・・・・・・・・・15～19

佐賀整肢学園・かんざき日の隈寮・・・・・・・・・・20

佐賀整肢学園・佐賀向陽園・・・・・・・・・・・・・・・・・・21～22

居宅介護支援センターわいわい・・・・・・・・・・23～25

（ 総括抜粋 ）

令和5年度社会福祉法人佐賀整肢学園法人本部事業報告（案）

令和5年度における社会福祉法人佐賀整肢学園法人本部の主な事業実績は、次のとおりであった。

1. 理事会及び評議員会の開催

令和5年度は、理事会を対面式で4回、決議の省略で2回開催し、67件の議案審議、6件の報告、1件の協議を行った。また、評議員会は1回開催し、3件の議案審議、2件の報告を行った。

開催状況は下記のとおりであった。

（理事会）

回数	開催日	区分	主な内容
第1回	令和5年 6月9日	議 案 (22件)	1. 令和4年度佐賀整肢学園事業報告について（案） 2. 令和4年度佐賀整肢学園決算認定について（案） 3. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期理事の選任について（案） 4. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期監事の選任について（案） 5. 社会福祉法人佐賀整肢学園役員等報酬規程の一部改正について（案） 6. 社会福祉法人佐賀整肢学園法人本部管理運営規程の一部改正について（案） 7. 社会福祉法人佐賀整肢学園・法令遵守規程の一部改正について（案） 8. 佐賀整肢学園法人事務局長等の任用及び給与に関する規程の一部改正について（案） 9. 使用者の利益を代表する者の範囲を定める規則の一部改正について（案） 10. 佐賀整肢学園法人事務局経営指導室長の任命について（案） 11. 社会福祉法人佐賀整肢学園決裁規程の一部改正について（案） 12. 社会福祉法人佐賀整肢学園 内部管理体制の基本方針の一部改正について（案） 13. 社会福祉法人佐賀整肢学園組織規則の一部改正について（案） 14. 佐賀整肢学園こども発達医療センター管理規程の一部改正について（案） 15. 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員特殊勤務手当支給規程の一部改正について（案） 16. 佐賀整肢学園こども発達医療センター有期契約職員就業規則の一部改正について（案） 17. 佐賀整肢学園こども発達医療センター医師当直・宅直規程の一部改正について（案） 18. 佐賀整肢学園オークス利用者慶弔規程を廃止する規程の制定について（案） 19. 令和5年度社会福祉法人佐賀整肢学園定時評議員会の開催について（案） 20. 社会福祉法人佐賀整肢学園会計監査人の報酬について（案） 21. 佐賀整肢学園こども発達医療センター周辺隣接地の取得につい

			て (案) 22. 専決処分の承認について (案)
		報告事項 (3 件)	1. 令和 4 年度決算値 社会福祉充実残額 2. 令和 4 年度実績定例報告関係 ・個人情報開示の実施状況・法人文書開示の実施状況・理事長専決事項の件数 ・職員の任免状況・法人内施設の利用実績 ・理事長及び業務執行理事の業務執行状況の報告 ・令和 4 年度資金運用の報告について 3. その他 佐賀向陽園浴室 (槽) 改修工
		協議事項	1. なし
第 2 回	令和 5 年 6 月 29 日	議 案 (7 件)	1. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期理事長の互選について (案) 2. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期副理事長の互選について (案) 3. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期常務理事の互選について (案) 4. 令和 5 年度佐賀整肢学園補正予算について (案) 5. 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員給与規程の一部改正について (案) 6. 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員の任用及び初任給、昇格等の基準に関する規則の一部改正について (案) 7. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター土地の取得について (案)
		報告事項	なし
		協議事項	なし
決議の 省略	令和 5 年 10 月 3 日	議 案 (5 件)	1. 専決処分の承認について (案) 2. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター在宅事業部職員就業規則の一部改正について (案) 3. 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員給与規程等の一部改正について (案) 4. 佐賀整肢学園こども発達医療センター有期契約職員就業規則等の一部改正について (案) 5. 佐賀整肢学園・オークス障害者支援施設運営規程等の一部改正について (案)
		報告事項	1. なし
		協議事項	1. なし
第 3 回	令和 5 年 12 月 11 日	議 案 (12 件)	1. 令和 5 年度補正予算 (第 2 号) について (案) 2. 社会福祉法人佐賀整肢学園定款の一部改正について (案) 3. 社会福祉法人佐賀整肢学園臨時評議員会について (案) 4. 社会福祉法人佐賀整肢学園資金運用規程の一部改正について (案) 5. 資金運用者の任命について (案) 6. 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員特殊勤務手当支給規則の一部改正について (案) 7. 佐賀整肢学園こども発達医療センター指定訪問リハビリテーション (指定介護予防訪問リハビリテーション) 運営規程の一部改正について (案)

			8.指定介護老人福祉施設佐賀整肢学園・かんざき清流苑運営規程等の一部改正について（案） 9.佐賀整肢学園からつ医療福祉センター入所事業部職員就業規則の一部改正について（案） 10.佐賀整肢学園からつ医療福祉センター入所事業部正職員給与規程等の一部改正について（案） 11.佐賀整肢学園からつ医療福祉センター入所事業部契約職員就業規則等の一部改正について（案） 12.佐賀整肢学園こども発達医療福祉センター周辺隣接地の取得について（案）
		報告事項 (1件)	1. 理事長及び業務執行理事の業務執行状況の報告（令和5年4月～9月）
		協議事項	1. なし
決議の 省略	令和6年 1月12日	議案 (1件)	1. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター造成工事に係る工事請負契約の締結について（案）
		報告事項	1. なし
		協議事項	1. なし
第4回	令和6年 3月28日	議案 (20件)	1. 令和5年度佐賀整肢学園補正予算（第3号）について（案） 2. 令和6年度佐賀整肢学園事業計画について（案） 3. 令和6年度佐賀整肢学園当初予算について（案） 4. 令和6年度資金運用計画の承認について（案） 5. 諸規程の改正について（案） 5-1 佐賀整肢学園こども発達医療センター管理規程等の一部改正について（案） (1)佐賀整肢学園こども発達医療センター管理規程 (2)佐賀整肢学園・オークス管理規程 (3)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター組織管理規程 5-2 使用者の利益を代表する者の範囲を定める規則の一部改正について（案） 5-3 佐賀整肢学園福祉・介護人材処遇改善手当（処遇改善加算分、特定処遇改善加算分）支給規程の一部改正について（案） 5-4 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員就業規則等の一部改正について（案） (1)佐賀整肢学園こども発達医療センター職員就業規則 (2)佐賀整肢学園こども発達医療センター有期契約職員就業規則 (3)佐賀整肢学園・オークス就業規則 (4)佐賀整肢学園・オークス有期契約職員就業規則 (5)佐賀整肢学園・佐賀向陽園職員就業規則 (6)佐賀整肢学園・佐賀向陽園有期契約職員就業規則 (7)居宅介護支援センターわいわい職員就業規則 (8)居宅介護支援センターわいわい有期契約職員就業規則 5-5 佐賀整肢学園・オークス職員給与規程等の一部改正について（案） (1)佐賀整肢学園・オークス職員給与規程

			(2)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター入所事業部正職員給与規程 (3)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター在宅事業部正職員給与規程 (4)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター好学会職員給与規程 (5)佐賀整肢学園・佐賀向陽園職員給与規程 (6)居宅介護支援センターわいわい職員給与規程 5-6 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員特殊勤務手当支給規則の一部改正について(案) 5-7 佐賀整肢学園こども発達医療センター職員の旅費に関する規程等の一部改正について (案) (1)佐賀整肢学園こども発達医療センター職員の旅費に関する規程 (2)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター職員旅費規程 (3)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター在宅事業部職員旅費規程 (4)佐賀整肢学園からつ医療福祉センター好学会職員旅費規程 5-8 社会福祉法人佐賀整肢学園経理規程の一部改正について (案) 5-9 佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひまわり園指定短期入所事業運営規程等の一部改正について (案) (1)佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひまわり園指定短期入所事業運営規程 (2)佐賀整肢学園こども発達医療センター・たんぽぽ園指定療養介護事業運営規程 (3)佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひまわり園指定医療型障害児入所施設運営規程 (4)佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひよこ教室指定児童発達支援センター (5)佐賀整肢学園こども発達医療センター・ひまわり園日中一時支援事業運営規程 (6)佐賀整肢学園こども発達医療センター指定生活介護事業運営規程 (7)佐賀整肢学園こども発達医療センター・放課後等デイサービス事業所日中一時支援事業運営規程 (8)佐賀整肢学園こども発達医療センター指定放課後等デイサービス事業運営規程 (9)佐賀整肢学園こども発達医療センター指定特定・障害児相談支援事業運営規程 (10)佐賀整肢学園・オークスあったか日中一時支援事業運営規程 (11)佐賀整肢学園・オークス 障害者支援施設運営規程 (12)佐賀整肢学園・オークス 指定放課後等デイサービス事業運営規程 (13)佐賀整肢学園・オークス 生活介護事業所運営規程 (14)佐賀整肢学園・オークス 就労継続支援 B 型事業所運営規程
--	--	--	--

			(15)佐賀整肢学園・オークス 共同生活援助事業運営規程 (16)佐賀整肢学園・オークスグループホームあったか短期入事業運営規程 (17)からつ医療福祉センター・アルトン指定療養介護事業運営規程 (18)からつ医療福祉センター・アルトン指定短期入所事業運営規程 (19)からつ医療福祉センター・アルトン指定医療型障害児入所施設運営規程 (20)からつ医療福祉センター・久里双水園指定障害者支援施設運営規程 (21)からつ医療福祉センター・アルトンあかり指定児童発達支援事業運営規程 (22)からつ医療福祉センター・アルトンあかり指定放課後等デイサービス事業運営規程 (23)からつ医療福祉センター・まつぼっくり教室指定児童発達支援センター運営規程 (24)からつ医療福祉センター・まつぼっくり教室指定放課後等デイサービス事業運営規程 (25)からつ医療福祉センター・久里双水園多機能型事業所（指定生活介護、指定就労継続支援B型）運営規程 (26)からつ医療福祉センター・久里双水園福祉ホーム事業運営規程 6. 佐賀整肢学園こども発達医療センターひまわり園施設長の選任について(案) 7. 佐賀整肢学園こども発達医療センターたんぽぽ園施設長の選任について(案) 8. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター アルトン施設長の選任について(案) 9. 佐賀整肢学園からつ医療福祉センター好学舎施設長の選任について(案) 10. 佐賀整肢学園・佐賀向陽園及び居宅介護支援センターわいわい施設長の任命について(案) 11. 佐賀整肢学園かんざき日の隈寮副施設長の任命について(案) 12. 佐賀整肢学園法人事務局長の任命について(案) 13. 佐賀整肢学園こども発達医療センター副センター長の任命について(案) 14. 社会福祉法人佐賀整肢学園評議員選任・解任委員の選任について(案) 15. 社会福祉法人佐賀整肢学園評議員選任候補者の推薦及び選任・解任委員会の開催について(案) 16. 社会福祉法人佐賀県社会福祉協議会による佐賀県介護福祉士修学支援金等貸与制度に係る連帯保証について(案) 17. 佐賀整肢学園こどもセンター東側土地の取得について(案) 18. 佐賀整肢学園こども発達医療センター洗濯委託業務の契約について(案) 19. 佐賀整肢学園こども発達医療センター清掃委託業務の契約につ
--	--	--	---

			いて (案) 20.社会福祉法人佐賀整肢学園給食業務委託契約締結の承認について (案)
		報告事項 (2 件)	1. 監査関係 (清流苑) 介護保険法に基づく運営指導 (令和 6 年 1 月 18 日実施) 居宅介護支援事業 (好学舎) 児童養護施設等指導監査の結果について (令和 5 年 11 月 6 日実施) 2. その他 (日の隈寮) 御下賜金の受領について (向陽園) 令和 5 年度佐賀県地域介護・福祉空間整備等施設整備補助金事業の完了について (わいわい) 2023 年度日本財団福祉車両配備に係る車両整備の完了について (オックス) 令和 4 年度あすなろ福祉財団福祉助成事業の完了について (オックス) 令和 5 年度二酸化炭素排出抑制対策事業費補助金事業の完了について
		協議事項 (1 件)	1.佐賀整肢学園こども発達医療センター洗濯作業棟等増築工事について

(評議員会)

回数	開催日	区分	主な内容
定時評議員会	令和 5 年 6 月 29 日	議 案 (3 件)	1. 社会福祉法人佐賀整肢学園役員等報酬規程の一部改正について (案) 2. 社会福祉法人佐賀整肢学園次期理事の選任について (案) 3.社会福祉法人佐賀整肢学園次期監事の選任について (案)
		報告事項 (2 件)	1. 令和 4 年度事業実績報告関係 ・ 令和 4 年度佐賀整肢学園事業報告 ・ 令和 4 年度佐賀整肢学園決算報告 ・ 令和 4 年度決算値 社会福祉充実残額 2. 令和 4 年度実績定例報告関係 ・ 職員の任免状況 ・ 法人内施設の利用実績
		協議事項	1. なし

2. 施設長会議及び事務長・経営企画職会議の開催

法人内各施設間の連絡調整と連携強化を図るため、施設長会議及び事務長・経営企画職会議を毎月 1 回定期的に、あるいは必要に応じて随時に開催した。

また、この会議において、理事会・評議員会への提出議案等についての検討協議を行った。

3. 経営管理委員会の開催

法人運営について、専門的見地から幅広く意見や提言をいただくために設置された経営管理委員会の運営状況は、下記のとおりであった。

区分	事項	出席者
先進法人視察	○日時 令和5年11月7日～9日 ○視察地 愛媛県 ○視察先法人名及び施設名 (社福) 旭川荘 旭川荘南愛媛病院・南愛媛療育センター ○視察先事業 医療型障害児入所施設・療養介護事業所、短期入所、生活介護、障害児通所、相談支援事業所、障害児相談支援事業所 ○視察先事業 医療型障害児入所施設・療養介護事業所	常任委員 3名 非常任委員 4名 法人職員 4名
先進法人視察	○日時 令和6年3月24日～26日 ○視察地 宮崎県 ○視察先法人名及び施設名 (社福) 愛泉会日南病院 愛泉会日南病院 ○視察先事業 医療型障害児入所施設・療養介護事業所	常任委員 2名 非常任委員 4名 法人職員 3名

4. 施設整備計画推進と調整

法人内各施設において推進されている、施設の建設、修繕・改修ならびに大規模な設備導入等の施設整備計画の推進において、所期の事業目的が達成されるよう、国、県・市等の行政機関や関係機関等との協議調整を図った。

また、土地の取得に際して、関係行政機関や地権者等との調整・協議を行った。

(施設の建設・改修等)

施設名	内容
こども発達医療センター	・北側用地、隣接地の取得 取得面積 4,831 m ² 取得金額 24,092,500 円 ・さくら館屋根防水改修工事 7,051,000 円
オークス	・合併処理浄化槽更新周辺整備工事 総事業費 22,498,600 円 (うち環境省補助 7,600,000 円) ・天井走行式リフト 総事業費 2,500,000 円 (うちあすなろ財団補助 1,000,000 円)
からつ医療福祉センター	・近隣土地の取得、造成 取得面積 1,316 m ² 取得金額 23,454,000 円 (造成および関連経費を含む) ・2階会議室改造工事 (会議室→ST 室) 取得金額 9,900,000 円 (うち日本財団補助金 6,019,000 円) ・車内置き去り防止装置 (11 台) 取得金額 1,544,510 円 (うち佐賀県補助金 1,544,510 円)
糸島クリニック	・車内置き去り防止装置 (3 台) 取得金額 390,830 円 (うち福岡県補助金 390,830 円)

向陽園	・受水槽・高架水槽入替工事一式 事業費 11,990,000 円 (うち佐賀県補助 8,323,000 円)
わいわい	・公用車(日産キャラバン)購入 購入価格: 3,972,380 円 (うち日本財団補助 3,060,000 円)

5. 人事労務管理研修会の開催

法人内各施設の管理・監督職員を対象にした人事労務管理の研修会を下記のとおり開催し、管理監督職員のマネージメント能力の向上を図った。

研修の名称(演題)	開催時期(開催場所)	受講者	講師
管理監督者訓練 TWIセミナー ①「人への接し方」 ②「仕事の教え方」	① 令和6年1月24日・25日 ② 令和6年2月7日・8日 (こどもセンター会議室)	各施設から 管理監督者等が6 名参加	職業能力開発協会 が選定した実施機 関の管理監督者訓 練トレーナー

6. 情報公開と提供

法人及び法人内各施設に関する情報の公開・提供のため、法人広報誌の作成配布(年3回発行、毎回1,650部配布)及びホームページの更新を行い、法人及び各施設のイメージアップと周知を図った。

7. 職員福利厚生施設の整備と利用促進

法人職員の福利厚生の実質強化を図るために取得した長崎県佐世保市のハウステンボス「ワッセナー」内の住宅及び大分県由布市湯布院町由布高原村の保養所の利用促進を図った。

また、県内の近場で、気軽に利用できる保養所を要望する職員の期待に応え、佐賀市富士町上熊の川に整備した温泉付き保養所の利用促進を図った。

ハウステンボス保養所	湯布院保養所	熊の川保養所
・土地 376.35 m ² ・建物 モニエル瓦葺き2階建 (123.46 m ²) ・令和5年度利用件数116件 (昨年87件)	・土地 845.79 m ² ・建物 木造鋼板葺き平家建 (117.75 m ²) ・令和5年度利用件数94件 (昨年106件)	・土地 1,358.83 m ² ・建物 木造瓦葺 (205.5 m ²) ・令和5年度利用件数442件 (昨年293件)

8. 退職金支給制度の運営

法人事務局において、法人内各施設の社会福祉施設職員退職手当共済事業事務を取りまとめ、掛金の納入事務及び退職金の請求事務を行った。

また、平成28年度からの社会福祉施設職員退職共済制度の見直しに伴い、平成28年度からの新規入職者等に対する退職金制度として、企業型確定拠出年金制度及び法人独自の積立金制度を採用し、事務取り纏め及び掛金の納入事務を行った。

		こども	オークス	清流苑	からつ 糸島	日の隈	向陽園 わいわい	計
共済	加入者数	225	45	16	146	25	14	471
	掛金 (円)	10,012,500	2,002,500	712,000	6,497,000	1,112,500	623,000	20,959,500
401K	加入者数	119	26	31	96		12	284
	掛金 (円)	8,855,000	1,495,000	2,235,000	6,935,800		900,000	20,420,800
合計	加入者数	344	71	47	242	25	26	755
	掛金 (円)	18,867,500	3,497,500	2,947,000	13,432,800	1,112,500	1,523,000	41,380,300

- ・加入者数は、退職共済は令和5年4月1日、確定拠出年金は令和6年3月1日。
- ・確定拠出年金の掛金は、令和5年4月～令和6年3月分までの累計額。

9. 障害者雇用の促進

障害者雇用促進法に基づく事業主の障害者雇用義務(令和5年4月～令和6年3月法定雇用率2.3%)履行のため、法人内各施設での障害者の雇用促進に努めた。法人全体の年間の障害者雇用状況は次のとおりであった。

$$\begin{aligned}
 & \frac{\text{障害者である常用雇用労働者数} + \text{障害者である短時間労働者数} \times 0.5}{\text{常用雇用労働者数} + \text{短時間労働者数} \times 0.5} = \frac{252}{8,301.5} = 3.04\% > 2.3\%
 \end{aligned}$$

(年間延人員)

10. 経営組織のガバナンスの強化への対応

(1) 監事監査の実施

法人内各施設において、監事による決算監査を5月30日と5月31日に、定期監査を12月7日と12月8日に実施した。

(2) 会計監査人による監査の受審

会計監査人による決算監査を5月23日、5月25日、5月26日に受審した。

(3) 内部監査の実施

法人内各施設の担当職員が、相互に対象施設の事業執行状況について内部監査を行った。
(10月5日、6日、11日、12日、11月1日、2日)

11. 人材の確保

(1) 職員採用活動

法人内の各施設職員をメンバーとする「職員採用プロジェクトチーム」を編成して、法人内外で開催されるリクルート関連イベント等に積極的な参加を行った。

(2) 外国人介護留学生の及び特定技能外国人

介護職員確保策の一環として、外国人介護留学生の法人内施設への受け入れを行い、令和5年度はミャンマー人学生4名とネパール人学生2名を受け入れた。また、特定技能外国人としてミャンマー人3名を受け入れた。

令和5年度 佐賀整肢学園こども発達医療センター事業報告（案）

（総括）

令和5年度事業計画に基づき、以下の事業を行った。

医療型障害児入所施設・療養介護事業所（定員 179 名）、医療機関事業（入院・外来、医科・歯科 定床 199 床）、指定短期入所事業（空床型、併設型 10 床の併用）、児童発達支援センター（福祉型）（定員 15 名）、生活介護事業（定員 15 名）、放課後等デイサービス事業（定員 7 名）、保育所等訪問支援事業、日中一時支援事業、指定特定・障害児相談支援事業、障害児等療育支援事業、指定訪問リハビリテーション事業（介護保険）、居宅介護支援事業（介護保険）

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたものの、引き続き感染防止対策を行いながら事業を実施した。ここ数年は多くの行事が中止・規模縮小であったが、少しずつ元の形に戻してきた。

入所・入院部門では、入院患者数は 63,064 名（前年 61,861 名）で 1,203 名の増、医療ベッド利用率（199 床）は 86.6%となった。要因は、手術件数が増加したことにより入所利用者数及び一般入院患者数が若干増加したことによる。

福祉契約利用の入所者数では、59,584 名（前年 58,992 名）で 592 名の増、平均入所者数は 162.8 名（179 床）で、利用率は 90.9%。

通所・外来部門では、新型コロナ感染対策として問診や消毒等を徹底したことで児童発達支援センター、放課後等デイサービス事業、生活介護事業の在宅サービス利用者総数は 5,798 名（前年 5,535 名）となり、前年に比べ 263 名の増となった。外来患者総数は 47,598 名（前年 47,772 名）で前年に比べ 174 名の減となった。

収支は、入院・入所・通所・外来による減収、人件費を含む費用の減額により、経常増減差額（利益）は、186,741 千円で前年 172,400 千円に比べ 14,341 千円の増益となり、当期活動増減差額は 167,677 千円となった。積立金の総額は 4,401,043 千円であり、純資産の合計は 8,479,643 千円で前年 8,352,001 千円より 127,642 千円の増となった。

- 〈器機・備品整備〉 ①高圧滅菌装置（手術室）
②超音波診断装置（手術室）
③相談支援請求ソフト一式（相談室）
④車両 1 台（普通車）

〈土地整備〉 ①農地：7 筆 計 4,831 m²

令和5年度 佐賀整肢学園・オークス事業報告

佐賀整肢学園・オークス
施設長 中島 重信

〈総括〉

令和5年度は、前年度に引き続き、施設入所支援事業、短期入所事業、障害者通所事業、介護保険通所事業、障害者就労事業、放課後等デイサービス事業、共同生活援助事業を行った。

入所サービス課においては、入院や逝去に伴い退所される方が相次ぎ、新規入所される方がその数を下回ったことで5年度末時点では利用者の実数が49名の利用となっている。ただ、前年度と比べると長期入院する方が少なくなったことで実績としては微増となった。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、様々な行事や活動の実施、再開に向けてそれらのあり方を模索する難しさを感じる一年となった。結果的に利用者やそのご家族には、行事の縮小、外出の制限など、負担や我慢をお願いせざるを得ない状況が続いた。感染症対策と併せ、利用者が健康的かつ充実した生活を送る事ができるよう、職種間で連携し創意工夫していくことが求められている。

在宅サービス課では、新規利用者の受け入れも行ったが、新型コロナウイルス感染症による通所の制限や介護保険サービスへの移行があり、生活介護の利用実績はほぼ横ばいであった。特別支援学校卒業後の新規利用契約があるものの、介護保険サービスへの移行が次年度も見込まれ、利用実績は大きくは変わらない見込みである。利用実績と令和6年度からの報酬改定内容を踏まえ、生活介護の定員は一旦30名に戻すこととした。就労支援事業においては、長期入院の利用者がいることで利用者数は減少しているものの委託事業の収入が上がったことで利用者工賃は増となった。放課後等デイサービス事業は、療育活動を充実させ、重度の障害児の受け入れを積極的に行い利用者数は微増となった。共同生活援助は年度当初からあったかにきらりを統合し、一事業所とすることで夜間も含めた支援体制の拡充、業務の効率化を図った。そのことで新規入居者を迎えることもでき利用者増となった。介護保険事業である地域密着型通所介護は、長期入院、体調不良等により減員、減収となった。

施設整備においては、令和5年度浄化槽システムの脱炭素化推進事業（二酸化炭素排出抑制対策事業補助金）を活用し、老朽化していた合併処理浄化槽の移設を行った。就労事業における野菜生産の効率化、生産量の拡大を図るため、生産する野菜の種類や量、販売方法について検討を行った。特に原木椎茸の本格的な生産に向けて準備に取り組んだ。

人材確保においては、前年度に引き続き留学生の受け入れを行った。また、企業説明会や合同就職セミナーへ積極的に参加やハローワークの活用など必要に応じた方法を検討し、人材確保に努めた。学校関係では、積極的に各学校の進路担当教員と面談を行うことや、実習生を受け入れることで学校との関係づくりに取り組んだ。

令和5年度の佐賀整肢学園・オークスの決算は、経常増減差額（利益）は、35,863千円で前年36,433千円に比べ570千円の減益となり、当期活動増減差額は30,944千円となった。積立金の総額は357,548千円であり、純資産の合計1,311,422千円で前年1,290,857千円より20,565千円の増となった。

・入所サービス

- ① 1日の平均利用者数は、定員50名に対し、施設入所支援事業で51.19名、生活介護事業51.11名であった。

- ② 併設型短期入所事業（定員 4 名）は、年間利用延べ人員 115 名、一日平均利用 0.32 名であった。
- ③ 日中一時支援事業は、利用希望がなかった。

・在宅サービス

- ① 介護保険地域密着型通所介護（定員 10 名）は、開所日数 256 日、延べ利用者 1,506 名、1 日の平均利用者数は 5.88 名であった。
- ② 生活介護事業（定員 32 名）は、開所日数 256 日、延べ利用者 7,206 名、1 日平均利用者数 28.18 名であった。
- ③ 就労継続支援 B 型事業（定員 10 名）は、開所日数 256 日、延べ利用者 1,647 名、1 日平均利用者数 6.43 名であった。
- ④ 放課後等デイサービス事業（定員 6 名）は、開所日数 308 日、延べ利用者 1,531 名、1 日平均利用者数 4.97 名であった。
- ⑤ 介護サービス包括型共同生活援助事業（グループホームあったか）（定員 19 名）は、延べ利用者 6,037 名、1 日平均利用者数 16.5 名であった。
単独型短期入所事業（ショートステイあったか）（定員 5 名）は、延べ利用者 479 名、1 日平均利用者数 1.3 名であった。

佐賀整肢学園・かんざき清流苑
施設長 江口 泰子

（総括）

令和5年度事業計画に基づき、指定介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム 利用定員50名）、短期入所生活介護（ショートステイ 利用定員20名）の2事業を実施した。

入所者の重度化や医療的なニーズの高い方・認知症ケアの必要な方がより顕著となっている中で、介護報酬加算体制に基づく職員（介護福祉士、看護職員）を適切に配置し、各種研修会に積極的に職員を参加させ資質・専門性のさらなる向上を図った。また、住み慣れた施設で穏やかに最後を迎えたいと願う入所者の思いに寄り添いながら、嘱託医や協力医療機関等との連携の強化に努め、医療的ケアの必要性が増す入所者への急変時の対応を行うと共に、人生の最後まで尊厳ある生活を送れるように支援を行った。

ICTの推進については、佐賀県の補助金を活用し、記録ソフトや記録用端末の導入を行い職員の業務負担軽減や効率化、事業所間の情報共有の強化等を行なった。

介護保険利用料自己負担の軽減（社会福祉法人等利用者負担軽減制度）を実施し、生活困窮者の経済的支援にも努めた。

令和5年度のかんざき清流苑の決算は、新型コロナウイルス感染症等による短期入所利用者減の影響等により、経常増減差額（利益）3,126千円で前年8,277千円に比べ、5,151千円の減益となり、当期活動増減差額は△2,555千円となった。積立金の総額は、73,500千円であり、純資産の合計は599,660千円で前年615,071千円より15,411千円の減となった。

1. 施設・機器等の整備

- ・ICT機器（ケア記録ソフト、ノートPC2台、ipad1台）を整備した。
（令和5年度佐賀県介護現場における先進機器導入支援事業補助金）
- ・厨房用冷蔵テーブル・殺菌庫の入替を行なった。
- ・空調機の修理を行なった（厨房、居室）
- ・駐車場外灯の修理を行なった。
- ・厨房床下の排水管修理を行なった。

2. 入所者関係（特別養護老人ホーム入所定員～50名、短期入所定員～20名）

特別養護老人ホームの年間の延入所人員は18,137名で、1日平均の入所人員は、49.7名となった。（前年度平均48.8名で0.9名増）また、短期入所では、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、1日平均の利用人員は、16.4名で前年平均より0.9名の減であった。

令和5年度の特別養護老人ホーム・短期入所の1日の平均利用人員は66.1名となった。

（前年度の平均利用人員66.1名）

3. その他

- ① 佐賀女子短期大学生である留学生2名（ミャンマー出身）について奨学金制度によるサポート施設としての支援を行なった。（佐女短期大学留学生4名、外国人正規職員2名）
- ② 物価高騰の影響が大きい神埼市内在住の独居高齢者世帯を対象として、クリスマスディナーの配食サービスやかんざき日の限寮と協働による地域交流食堂「こんね」を開催した。（神埼市生活困窮者支援体制構築「プラットフォーム整備事業補助金」による）

令和5年度 在宅サポートセンターかんざき清流苑事業報告（案）

在宅サポートセンター かんざき清流苑
施設長 江口 泰子

（総括）

令和5年度の事業計画に基づき、社会福祉事業（デイサービス、居宅介護支援、認知症対応型共同生活介護、認知症対応型通所介護事業（共用型））、公益事業（サービス付き高齢者向け住宅）の5事業の運営を行なった。介護保険事業所については、介護報酬加算体制に基づく職員（介護福祉士、看護職員、認知症介護実践者研修受講者等）を適切に配置し、機能訓練や認知症の方へのサービス向上に努めた。

令和5年度の決算は、新型コロナクラスターによる通所事業の休業やインフルエンザ感染症及び設備機器の修繕増等の影響により、社会福祉事業では、経常増減差額（利益）△15,985千円で、前年△3,488千円に比べ12,497千円の減益となり、当期活動増減差額は△16,521千円となった。公益事業の決算は、経常増減差額（利益）△5,766千円で、前年△4,464千円に比べ1,302千円の減益となり、当期活動増減差額は△5,766千円となった。積立金の総額（社会福祉事業公益事業合算）は37,000千円であり、純資産の合計は308,299千円で前年331,601千円より23,302千円の減となった。

1. 施設・機器等の整備

- ・ICT機器（ケア記録ソフト、ノートPC1、ipad1）、デイサービス内にWiFi環境を整備した。（令和5年度佐賀県介護現場における先進機器導入支援事業補助金）
- ・デイサービス浴室水栓及び機械浴槽の修理を行なった。
- ・グループホームの空調機修理を行なった。
- ・エレベーターのセンサー修理を行なった。
- ・グループホームのトイレ便器の入替を行なった（居室、職員室）
- ・居宅支援事業所のカーテンの入替を行なった。

2. サービス利用状況

① デイサービス（月曜日から土曜日：定員40名、日曜日：定員20名）

延利用者数は9,789名（介護8,140名、支援1,649名）で前年度より463名の減となり、1日の平均利用人員は、27.2名であった。（月～土曜日は30.5名、日曜日は6.6名）

② 居宅介護支援（ケアプラン作成等）

年間2,429名（予防312名、介護2,117名）の実績で、前年度から45名の減であった。

③ グループホーム（定員9名）

延利用者数は3,213名で、前年度から61名の減となり1日の利用人員は平均8.8名であった。

④ 認知症対応型通所介護（定員3名）

延利用者数は627名で、前年度から183名の減となり1日の利用人員は平均2.1名であった。

⑤ サービス付き高齢者向け住宅（定員23名）

延利用者数は8,183名で、前年度から12名の増となり1日の利用人員は平均22.4名であった。

3. その他

- ① 物価高騰の影響が大きい神埼市内在住の独居高齢者世帯を対象として、クリスマスディナーの配食サービスや地域交流食堂「こんね」を開催した。（神崎市生活困窮者支援体制構築「プラットフォーム整備事業補助金」）

令和5年度佐賀整肢学園からつ医療福祉センター
(アルトン・久里双水園・まつぼっくり教室・好学舎
・糸島こどもとおとなのクリニック)
事業報告総括(案)

佐賀整肢学園からつ医療福祉センター
センター長 原 寛道
副センター長 岩瀬 裕幸
久里双水園施設長 笠野 健二
好学舎施設長 山田 秀男
糸島こどもとおとなのクリニック
施設長 藤井 敏男

(総括)

令和5年度事業計画に基づき、療養介護・医療型障害児入所施設：アルトン（定員45名）、障害者支援施設：久里双水園（定員52名）、児童発達支援センター：まつぼっくり教室（定員24名）の3施設の事業、好学舎（定員30名）、糸島こどもとおとなのクリニック（公益事業）及び糸島こどもとおとなのクリニック（社会福祉事業：医療型短期入所事業【定員6名】、児童発達支援事業【定員5名】、放課後等デイサービス事業【定員5名】）を実施した。

令和5年度のからつセンターの施設等整備においては、駐車場用地を取得し、造成工事を行った。好学舎及び糸島クリニックでは、特に行われなかった。

機器の整備においてはからつセンターでは、アルトンにて使用している自動入浴機の経年劣化により、新しい自動入浴機を整備した。また、今年度より耳鼻咽喉科の医師を招聘したことにより、耳鼻咽喉科内視鏡システムを新たに整備した。その他、経年劣化に伴う医療機器や電動ベッド、事務用機器、公用車等の施設整備を行った。糸島こどもとおとなのクリニックにおいては、歯科X線装置用サーバー等を整備した。好学舎では、利用者記録保存用サーバー及び備品保管用倉庫を整備した。

収益の状況はアルトン入所部門において、医科・歯科共に外来医療収入が大きく新型コロナウイルスの影響を受け、前年度比約10%減少した。また、福祉部門においては、新型コロナウイルスの感染の影響を受けつつも、入所者の確保等の努力により、利用者数で昨年度比98%と2%減にとどまり、短期入所については、昨年度比114%と利用者が増加した。在宅部門においては、児童発達支援事業が稼働率26%、前年比59%、放課後等デイの利用者数も前年比92%となった。新型コロナウイルスの影響ばかりではなく、唐津東松浦地区に新規事業所が多く開設され、利用者の取り合いとなっているのが現状である。

久里双水園の入所部門は、今年度も定員超過枠を効率的に利用し運営した。アルトン同様に新型コロナウイルスの影響を受けながらも、前年度比4%減にとどめることができた。在宅部門の生活介護、就労継続支援については、通所生活介護利用者数は、稼働率は59%であったが、昨年度比95%と若干の減少となった。相知で行っている就労事業所においては、稼働率は低調ながら、1日平均利用者数は昨年度比107%と若干増加した。福祉ホームについては、利用者数及び収入とも昨年度と同程度となった。就労継続支援及び福祉ホーム両事業は唐津市相知町に立地しているが、稼働率は50%未満と未だ低調な結果となった。

まつぼっくり教室では、利用者の感染症に伴う休み等があったものの、何とか前年度並みの利用者数及び収益を確保することができた。また、放課後等デイサービスについては、同様の原因で厳しい環境の中ではあったものの利用者数は、対前年比108%となった。日中一時支援事業については、利用者数は対前年比92%と昨年度比マイナスとなったが、発達障がい児の受入れを積極的に行い、利用者の流出をなんとか食い止めているのが現状となっている。

相談支援「きずな」は、プラン及びモニタリング数の合計としては、昨年度同等となり、収益も前年度並みの収入を得ることができた。

児童心理治療施設好学舎については、入所定員 30 名に対し、1 日平均利用数 21.0 名、稼働率 70%、年度末 3 月 1 日付措置 26 名であった。通所定員 10 名に対し 1 日平均利用数 2.6 名、稼働率 26%、年度末 3 月 1 日付措置 2 名であった。

糸島こどもとおとなのクリニックは開設から丸 7 年が経過した。コロナウイルス感染症・インフルエンザ感染症等の影響により施設運営を大きく見直す必要があった。感染防止対策・拡散防止対策に重点をおき、発熱者や小児科受診者、福祉部門の利用者などのエリアを分けた管理、空気清浄器などの感染予防機器の整備、職員への感染対策の徹底啓発を行った。感染が発生した場合も事業が継続出来るようにしながら運営を行い、延べ患者数は前年比 101.4%と増加、歯科についても、延べ患者数は前年比 107.1%と増加したが、整形外科は前年比 91.6%と減少した。収支的には、5 年目となる福祉事業の利用者が増加した結果、経常活動増減差額ベースで対前年度比 133%（昨年度△17,407 千円、今年度△13,010 千円）と改善しつつある。しかし、依然として厳しい状況は変わっていない。また、社会福祉事業については、医療型短期入所は、定員 6 名に対して、1 日平均利用者数 3.94 人（稼働率 65.7%）、児童発達支援事業は、定員 5 人に対して、1 日平均利用者数 4.18 人（稼働率 83.6%）、放課後等デイサービスは定員 5 人に対して、1 日平均利用者数 3.07 人（稼働率 61%）、日中一時支援事業は休止した。

令和 5 年度からつ医療福祉センターの収支については、経常増減差額（利益）は、27,202 千円（入所：7,524 千円・在宅：19,678 千円）で、前年 113,762 千円 に比べ 86,560 千円 の減益となり、当期活動増減差額は 29,878 千円（入所：10,201 千円・在宅：19,677 千円）となった。

積立金の総額は 1,157,167 千円（入所：745,167 千円・在宅：412,000 千円）であり、純資産の合計は 3,675,359 千円（入所：2,812,259 千円・在宅：863,100 千円）で前年 3,710,308 千円（入所：2,858,867 千円・在宅：851,441 千円）より 34,949 千円 の減となった。好学舎の収支は、経常増減差額（利益）は 28,558 千円 で、前年 27,119 千円 に比べ 1,439 千円 の増益となり、当期活動増減差額は 28,641 千円 となった。

積立金の総額は 146,000 千円 であり、純資産の合計は、639,687 千円 で前年 628,913 千円 より 10,774 千円 の増となった。

糸島クリニックの収支は、経常増減差額（利益）は △13,010 千円（公益：△33,837 千円・福祉：20,827 千円）で、前年 △17,407 千円 に比べ 4,397 千円 の増益となり、当期活動増減差額は △13,010 千円（公益：△15,437 千円・福祉：2,427 千円）となった。

積立金の総額は 2,500 千円 であり、純資産の合計は 545,091 千円（公益：414,579 千円・福祉：130,512 千円）で前年の 560,024 千円 より 14,933 千円 の減となった。

1. 施設設備の整備

今年度の施設等整備及び機器整備については、40,034 千円 であった。

(1) 施設等整備

- ① 双水宮ノ前駐車場用地取得（唐津）
- ② 双水宮の前駐車場用地造成工事（唐津）

(2) 機器整備

- ① 3 モーター電動ベッド整備（唐津）
- ② 特殊浴槽（ライラックプラス）（唐津）
- ③ 耳鼻咽喉科内視鏡システム整備（唐津）
- ④ 医療機器（サーボクレーブ、輸液ポンプ等）整備（唐津）
- ⑤ 事務機器（レーザープリンター等）整備（唐津）

- ⑥ 公用車（遠方出張用）整備（唐津）
- ⑦ 利用者記録保存用サーバー（1台）（好学舎）
- ⑧ 備品保管用物置（1台）（好学舎）
- ⑨ 感染性廃棄物保管物置（糸島公益）
- ⑩ 歯科X線撮影装置用サーバー一式（糸島公益）
- ⑪ アルコールチェッカー（糸島公益）
- ⑫ 置き去り防止装置整備（糸島福祉）

2. 事業の状況

今年度、佐賀整肢学園からつ医療福祉センター（入所、在宅）のサービス活動収益については、1,382,624千円（前年比96%）であった。

(1) 療養介護・医療型障害児入所施設：アルトン

入所定員45名（療養介護・医療型障害児入所）、契約外入院1名、短期入所8名、児童発達支援事業定員5名、放課後等デイサービス事業定員5名

① 医科外来は1日平均通院数68.2名、前年比90%であった。

歯科外来は1日平均通院数12.4名、前年比91%であった。

② 入所は1日平均利用者数44.1名、定員に対する稼働率は98%（前年比98%）であった。

③短期入所（宿泊・メディカル日帰り）は1日平均利用者数4.69名で定員に対する稼働率58%（前年比114%）であった。

④通所リハ（介護保険）は利用者確保が難しく、今年度も事業を休止した。

⑤児童発達支援事業は1日平均利用者数1.3名、定員に対する稼働率は26%（前年比59%）であった。

⑥放課後等デイサービス事業は1日平均利用者数4.17名、定員に対する稼働率は83%（前年比92%）であった。

(2)-1 障害者支援施設・久里双水園

（施設入所支援・生活介護定員52名・短期入所定員6名）

① 施設入所支援・生活介護の利用状況は1日平均利用者数50.3名（定員超過枠）、で定員に対する稼働率は96%（前年比96%）であった。

②短期入所事業・1日平均利用者数2.45名、定員に対する稼働率は40%（前年比94%）であった。

(2)-2 多機能型事業所（生活介護定員20名・就労継続支援B型事業定員10名）

①生活介護（通所）事業・1日平均利用者数11.8名、定員に対する稼働率59%（前年比95%）であった。

②就労継続支援B型事業・1日平均利用者数3.66名、定員に対する稼働率は36%（前年比107%）であった。

(2)-3 福祉ホーム事業（定員9名）

1日平均利用者数5名、定員に対する稼働率は56%（前年比100%）であった。

(3)-1 児童発達支援センター・まっぼっくり教室（定員24名）

1日平均利用者数17.4名、定員に対する稼働率は72.5%（前年比96%）であった。

(3)-2 放課後等デイサービス事業（定員10名）

1日平均利用者数9.3名、定員に対する稼働率は93%（前年比108%）であった。

(3)-3 日中一時支援事業は1日平均利用者数11.0名（前年比92%）であった。

(4) 相談支援事業（きずな・委託相談事業）

① 特定及び障害児相談支援事業でのプラン作成数 147 件、モニタリング数 392 件で合計 539 件（前年比 99%）であった。

② 地域療育等支援相談事業で受けた年間総相談数は、90 件（前年比 114%）であった。

③ 唐津市の北部地域障がい者相談支援センター運営の委託については、唐津市よりプロポーザル審査委員会の提案案内があったが、相談員不足もあり辞退した。

(5) 好学舎

今年度、好学舎のサービス活動収益については、207,058 千円（前年比 103%）であった。

① 入所定員 30 名は 1 日平均利用数 21.0 名（前年比 96%）、稼働率 70%、年度末措置 26 名であった。

② 通所定員 10 名は 1 日平均利用数 2.6 名（前年比 63%）、稼働率 26%、年度末措置 2 名であった。

(6) 糸島こどもとおとなのクリニック

今年度、糸島こどもとおとなのクリニック（公益・福祉）のサービス活動収益については、229,967 千円（前年比 99%）であった。

(6) -1 公益事業

① 医科の外来通院数は小児科年間 2,760 名（前年比 111%）、整形外科年間 5,184 名（前年比 91%）、リハビリテーション科年間 10,157 名（前年比 106%）、児童精神科は廃止した。1 日平均通院 68.5 名（前年比 101%）の実績であった。

② 歯科通院患者総数は 865 名（前年比 107%）、1 日平均通院 4.2 名（前年比 105%）の実績であった。

(6) -2 社会福祉事業：医療型短期入所事業（定員 6 名）、児童発達支援事業（定員 5 名）、放課後等デイサービス事業（定員 5 名）、日中一時支援事業（定員 3 名）

① 医療型短期入所は、年間 1,051 名、1 日平均利用者数 3.94 名（前年比 100%）、定員に対する稼働率は 65.7%であった。

② 児童発達支援事業は、年間 1,000 名、1 日平均利用者数 4.18 名（前年比 105%）、定員に対する稼働率は 83.6%であった。

③ 放課後等デイサービス事業は、年間 733 名、1 日平均利用者数 3.07 名（前年比 105%）、定員に対する稼働率は 61%であった。

④ 令和 2 年 12 月より開始した日中一時支援事業は、令和 5 年 4 月より休止した。

3. まとめ

令和 5 年度、新型コロナウイルスが感染症法上の第 2 類から 5 類へ変更された。からつ医療福祉センターにおいては、日々の感染症対策は継続して行ってきたが、感染力は未だに強く、病棟内等で 10 人以上の陽性者が発生する事態が数度あった。その影響により、収入面においては、アルトンでは主に外来患者数が前年度比約 10%の減少となり大きく影響を受けた。しかし、療養介護・医療型障害児入所については、ほぼ昨年同程度、久里双水園では今年度も定員超過枠を有効に稼働させ、更に重度の方の入所も促進、利用者数は多少減少したものの、ほぼ昨年同等の実績が上げることができた。通所の生活介護等多機能型事業所は、若干減少したが、就労 B 型事業所では前年度の実績を上回ることができた。また、まっぼっくり教室や放課後等デイサービスについては、前年並みあるいは若干上回る実績であった一方、あかりについては、放課後等デイサービスは、ほぼ前年度並みの実績であったが、児童発達支援については全年度の約 50%減となった。日中一時支援については、ほぼ前年度並みの実績を得ることができた。

好学舎について、施設の経営面では、当施設開設時の佐賀県との協議により、段階的に入所数の拡大を進めており、稼働率が入所部門で70%、通所部門で26%となっているが、令和5年度も佐賀県より厚生労働省へ定員の特例協議を行い、新型コロナ感染により利用が進まなかったことなどの理由により、暫定定員の設定が見送られ、入所定員30名、通所定員10名の定員が特例承認されたため、安定的な経営に必要な措置費収入を確保することができた。

糸島クリニック公益事業においては、感染症の流行等受けているものの、前年度を上回る患者数となり、改善傾向が見受けられた。福祉事業においては、日中一時支援事業を4月休止したものの、前年度を上回る収益を確保できており、地域から求められる様態を見極めつつ、医療と福祉両輪の連携を深め、収益のさらなる改善を目指す。

からつ医療福祉センターは、多様化するニーズに適応しつつ、「コロナとの共存」を模索している。今後も感染症等と対峙しつつ、利用者様を守りながら、突発的な事象に耐えうる財務体質を確保しつつ、唐津東松浦地区及び糸島地区になくてはならない医療、福祉施設として存在し続けられる経営を行っていきたい。

令和 5 年度 佐賀整肢学園・かんざき日の限寮事業報告（総括）（案）

佐賀整肢学園・かんざき日の限寮
施設長 大 島 毅

（総括）

令和 5 年度の事業計画に基づき、救護施設佐賀整肢学園・かんざき日の限寮（定員 70 名）の施設運営を行った。

事業の実施に当たっては、感染症対策に努めながら、利用者の活動や業務内容等について、随時見直しを行った。

関係機関と連携を密に取りながら、循環型施設として地域や他種別施設等への移行推進、自己実現に向けた各種サービスの充実に努めた。また、地域社会との連携、福祉人材の育成にも積極的に取り組んだ。

地域における公益的な取り組みとして、生活困窮者自立支援法に規定された就労訓練事業、生活困窮者の一時受入事業（独自事業）、生活困窮者に対する相談支援事業（独自事業）を実施した。

利用者の状況として、入所定員 70 名に対し、年間平均利用者は 76.5 名（前年度平均 76.9 名）となり、定員に対する利用率は 109%（前年度 110%）で推移した。

令和 5 年度のかんざき日の限寮の決算は、経常増減差額 33,613 千円で前年の 36,100 千円に比べ、2,487 千円の減益となり、当期活動増減差額 33,079 千円、次期繰越活動増減差額 370,714 千円であった。積立金の総額 354,500 千円となり、純資産の合計は 1,012,724 千円で前年度より 22,234 千円の増となった。

1. 施設設備の整備

（1）機器整備関係

- ・送迎用軽自動車 1 台（740 千円）を購入した。
- ・パソコン 1 台（162 千円）を購入した。

（2）設備整備関係

- ・非常放送設備の故障のため、修繕（1,540 千円）を行った。

佐賀整肢学園・佐賀向陽園
施設長 古川 政弘

（総括）

佐賀県より経営移譲を受け15年目となった今年度は、新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザも警報レベルで流行したため、重症化しやすい高齢者の生活施設として、安全・安心な生活が維持できるよう、徹底した感染防止策を講じながら生活支援を実施した。それでも2月中旬に、入所者5名が新型コロナウイルスに感染したが、同一敷地内の事業所（わいわい）の職員と協力体制をとり2月26日からは通常の生活に戻ることができた。

運営方針としては、法令遵守、法人の基本理念及び基本方針の元、「環境上及び経済的理由」による地域での生活が困難な「高齢者の生活の社会的セーフティ・ネット」として、安全、安心な生活環境下で、その能力に応じて、自立した日常生活ができるよう、自立支援を行った。

仏教婦人会有志による大正6年の開設時から今日までの長い歴史と伝統を継承し、民営施設としての柔軟な発想と科学的根拠に基づく「福祉」の実践をモットーに、令和5年度の事業計画に沿った運営を行なった。中でも、地域貢献事業の一環として、当施設とわいわいが主催の、「あつまろうよつばカフェ」を継続して実施した。毎月第3土曜日に、同一敷地内にある「デイサービスセンターわいわい」にて機能訓練や認知症予防講座・体操等に取り組み、好評を得た。また、少年刑務所における職業指導の場や救護施設入所者への就労の場の提供など、地域を問わず、社会貢献事業にも積極的に取り組んだ。

施設整備については、令和5年度佐賀県地域介護・福祉空間整備等施設整備費補助金を活用し、経年劣化のため破損していた「受水槽・高架水槽」の取替工事を行った。施設内の生活用水が安定して確保できるようになり、さらには、佐賀市との福祉避難施設としての協定を締結し、災害時には近隣住民を緊急一時避難先として受け入れることができるようになった。

健康管理など入所者の処遇面では、法人内の医療機関であるこども発達医療センター等法人内施設の協力のもと、処遇向上に努めた。加えて生計の立て直しなど「個別ケア」に重点を置く専門性の高い自立支援の強化も図った。盲、聾唖、虐待、触法累犯高齢者など、居場所のない高齢者などの困難事例を積極的に受け入れたことで、県地域生活定着支援センター、地域包括支援センターなどとの連携が深化し、DV被害者等の緊急入所の受け入れに繋がった。新たに、民生・児童委員との連携を構築し、セーフティ・ネットとしてのすそ野を広げることにとりかかった。

令和5年度措置者の実績は、措置解除者10名（昨年度12名）に対し、新規措置者2名（昨年度9名）、DV被害者の緊急一時受け入れ1名であった。年間平均入所者数は、定員80名に対し69.3名（昨年度75.3名）、平均入所率86.7%まで低下、さらに光熱水費・物価高騰などもあり、経営はますます厳しい状況に直面している。

令和5年度の県内12施設の養護老人ホームをみると、年間平均入所率は73.9%（昨年度78.7%）、令和6年度に向けて2施設が規模縮小（定員△50名）した。

令和5年度の佐賀整肢学園・佐賀向陽園の収支については、入所者減及び経年劣化・老朽化した施設の修繕等の経費増などにより、経常増減差額（利益）は、△933千円で前年の1,894千円に比べ2,827千円の減、当期活動増減差額は△540千円となった。積立金の総額は61,633千円であり、純資産の合計は226,382千円で前年240,153千円より13,771千円の減となった。

○ 施設設備・備品整備など

- ① 受水槽・高架水槽取替工事（うち、改修費の一部を令和5年度佐賀県地域介護・福祉

空間整備等施設整備補助金を活用)

- ② 揚水ポンプ取替工事
- ③ 業務用衣類乾燥機入替
- ④ 軽車両 1 台購入

○ 新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症対策

- ① 対面にならない座席配置のレイアウト継続（一部対面式のテーブルについては、飛沫拡散防止のための衝立を設置）。
- ② 食堂内の密回避として、食事提供時間を前半・後半のグループに分けた。
- ③ オゾン脱臭殺菌機 を活用し、食堂内を毎日殺菌。
- ④ 非接触体温計にて 1 日 3 回体温測定を実施、入所者の僅かな体調変化の早期把握に努めた。
- ⑤ 感染症罹患者隔離対応用の個室を 2 部屋準備。
- ⑥ 開催する会議は、感染状況を勘案し集合形式とリモート会議形式を使い分けた。

○ その他

- ① 職員の処遇向上として、毎月開催する働きやすい職場づくり委員会にて、ICT 機器活用等による業務効率化等を検討し、時間外労働等の減少につなげた。
- ② 労働環境の改善について、給食部門及び洗濯業務を外部の専門業者へ継続して委託、直接処遇業務の専門職として専念できるよう業務改善を図った。
- ③ 人材確保の一環として外国人留学生（ミャンマー）3 名を受け入れた。

令和 5 年 度
居宅介護支援センターわいわい事業報告書（案）

居宅介護支援センターわいわい
施 設 長 古川 政弘

（総 括）

当事業所は、平成 23 年 7 月、養護老人ホーム佐賀向陽園の同一敷地内に開設、老人デイ及び高齢者、身障者の訪問介護サービス事業を展開、13 年目を迎えた。今年度は、新型コロナウイルス感染症に加え、インフルエンザも警報レベルで流行したため、徹底した感染防止策を講じながら安全、安心な介護サービスの提供を実施した。それでも、2 月中旬、利用者 3 名・職員 6 名に新型コロナウイルス感染者が発生したため、感染拡大防止の観点から一般デイと認知デイを 13 日間営業自粛した。2 月 26 日からの営業再開後は感染者もなく、通常通りサービス提供を実施した。

運営方針として、社会貢献を継続し、地域高齢者支援事業の一環として、令和 3 年度より来迎寺地区老人クラブから引き継いでわいわいが主催となり開催している「あつまろうよつばカフェ」は、新型コロナウイルス等の感染防止対策を徹底し、令和 5 年度も継続実施した。おかげさまで参加者からは高評価を得ることができ、次年度以降の継続要望もいただいている。

デイサービスでは、「要支援、要介護状態になっても、その住み慣れた地域、環境で可能な限り、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営む」ことができるよう、第 8 期の介護保険事業の趣旨に基づき、中重度ケア・機能訓練を強化し利用者の身体機能の維持に力を入れた。また、認知症対応型デイサービスでは、その人の生活史を背景に個別の認知症ケアを実施、定期的に長谷川式スケールも行い、認知症の進行抑制に努めた。なお、養護老人ホーム入所者の利用では、同一敷地内のメリットを最大限に活用し、養護老人ホームとの連携の強化、行事の共催、利用者情報の共有など、様々な介護ニーズにスピーディかつ効率的に対応、包括的な生活支援を構築し、利用者の処遇向上に努めた。また、一般デイ及び認知デイ両事業所で移乗サポートロボット Hug を活用したことで、職員の腰痛予防等、働きやすい職場への改善に努めた。

訪問介護事業所は、平成 23 年 11 月から居宅介護事業（障害者総合支援法）を実施、今年度も福祉ホームくるみの家（唐津市相知町）にヘルパー派遣し、サービス提供を継続して行なった。一方、介護保険法に基づく訪問介護（高齢者ヘルパー）事業では、住み慣れた我が家での生活を、少しでも永く続けられるよう、サービス計画に沿ったヘルパー派遣を行った。また、リアルタイムでの情報共有ができるよう、インカムを活用し利用者のその日の状態把握を確実にし、業務効率化をし、生産性向上につなげた。

令和 5 年度の居宅介護支援センターわいわいの収支については、経常増減差額（利益）は、18,355 千円で前年 14,974 千円に比べ 3,381 千円の増益、当期活動増減差額は 14,280 千円となった。積立金の総額は 204,750 千円、純資産の合計は 338,098 千円で、前年 322,470 千円より 15,628 千円の増となった。

[事業概況]

1. デイサービスセンターわいわい（定員 30 名）

営業日は土曜日を除く週 6 日、令和 5 年度は、313 日（含コロナのため 13 日間営業自粛）サービスを実施。延べ利用者 7,217 名（昨年度 6,955 名）、1 日平均利用者数は 23.0 名（定員稼働率 76.7%）、令和 4 年度の実績を上回った主な要因は、新型コロナウイルス感染による営業自粛期間が令和 4 年度より少なかったこと、また、重介護の利用者等についても積極的に受け入れたことである。その結果、収支状況の経常増減差額（利益）は、7,600 千円（昨年度 7,383 千円）、昨年度より 217 千円の増となった。

2. 認知症対応型通所介護グループデイわいわい（定員 12 名）

営業日は日曜日を除く週 6 日、令和 5 年度は、313 日（含コロナのため 13 日間営業自粛）サービスを実施、延べ利用者 3,331 名（昨年度 3,180 名）、1 日の平均利用者数は 10.6 名（定員稼働率 88.3%）、令和 4 年度の実績を上回った主な要因は、新型コロナウイルス感染による営業自粛期間が令和 4 年度より少なかったこと、また、軽度の認知症状のある利用者を積極的に受け入れたことである。その結果、収支状況の経常増減差額（利益）は 2,984 千円（昨年度 2,372 千円）、昨年度と比べ 612 千円の増となった。

3. 訪問介護事業所 わいわい

(1) 介護保険事業部門

令和 5 年度は、366 日サービスを提供、サービス提供時間は朝 6:30～19:00、提供内容は生活援助、身体介護及び生活援助＋身体介護等の訪問介護サービスを、利用登録者 39 名（昨年度 43 名）に実施した。1 日の延べ利用人員は 36.0 名（昨年度 38.0 名）、年間利用実績件数は、13,157 件（昨年度 13,882 件）のホームヘルプサービスの提供を行なった。サービス提供内容では、起床・就寝介助などの身体介護が中心であった。令和 4 年度の実績を下回った主な要因は、主な訪問先である向陽園入所者の減に伴う利用者数減などにより利用実績が減少したことである。しかし、ヘルパー減に伴い、登録ヘルパー制度などをさらに積極的に活用し、サービス提供責任者を中心に効率的な人員配置等を行った結果、収支状況の経常増減差額（利益）は 5,688 千円（昨年度 2,206 千円）、昨年度と比べ 3,482 千円の増となった。

(2) 障害者総合支援（居宅介護）事業部門

本事業の対象者は、知的、精神及び身体などの障害程度区分が 1 以上の方に、支援サービス計画に沿って実施、7:00～20:00 の間に入浴、排泄及び家事などの援助を実施した。令和 5 年度は、契約登録者計 5 名（昨年度 5 名）の方に、延べ 767 件（昨年度同期間 1,314 件）のサービスの提供を行った。利用実績が減少した要因は、唐津地区の専任ヘルパーの人員補充ができず、訪問可能な日数が限られたこと等である。その結果、収支状況の経常増減差額（利益）は 2,081 千円（昨年度 3,013 千円）で、昨年度と比べ 932 千円の減になった。

(3) 地域活動支援（移動支援）事業部門

平成 30 年 10 月より、本事業を開始、対象者の要件は、身体障害者・療育もしくは精神障害者手帳所持者。移動支援は、サービス等利用計画に沿って、利用者の余暇活動など（映画鑑賞・買い物等）の外出または社会生活上必要不可欠な外出を個別に支援を行う。令和 5 年度の利用実績は、登録者は 4 名（唐津市、白石町、上峰町、小城市）であったが、今年度も新型コロナウイルス感染症等の影響で利用の希望がなく、利用実績は 0 件（昨年度 0 件）であった。

(特記事項)

- 施設設備・備品整備など
 - ① 介護記録・保険請求ソフト（クラウド型）導入
 - ② 車いす対応車両 1 台購入（日本財団補助金を活用）
- 新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症対策
 - ① 開催する会議は、感染状況を勘案し集合形式とリモート会議形式を使い分けた。
 - ② からつ方面のくるみの家出張所ともリモート会議方式にて開催。
 - ③ 飛沫拡散防止のための衝立を全テーブルに設置継続。
 - ④ オゾン脱臭殺菌機を活用し、ホール、浴室、トイレ内を毎日殺菌。
 - ⑤ 空気清浄機をホール内と職員の休憩室に設置継続。
 - ⑥ 二酸化炭素測定器を設置し、二酸化炭素濃度をチェックしこまめな換気を実施。
 - ⑦ 非接触体温計にてサービス利用中の体温測定を 3 回実施、僅かな体調変化のサインを察知。
- その他
 - ① 職員の処遇向上として、働きやすい職場づくり委員会にて ICT 機器活用等による業務効率化等を毎月検討し、時間外労働の減少となった。
 - ② 労働環境の改善について、洗濯部門を外部の専門業者へ継続して委託、さらにアシスタント職員と業務分担し、直接処遇業務の専門職として専念できるよう業務改善を図った。
 - ③ 電子掲示板を活用し、リモート会議での資料共有や唐津地区在住の利用者とのリモート面談等に活用し、業務効率化を図り生産性向上に努めた。
 - ④ ホール内のホワイトボードを活用し、職員の業務を可視化及び役割を明確化し、職員間の連携強化を図り、事故防止や利用者の安全確保に努めた。